

# 定例教育委員会会議録

平成30年12月25日

境港市定例教育委員会（平成30年12月25日委員会会議録）

招集年月日 平成30年12月25日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

教育委員会 教育長 松本 敏浩  
委 員（職務代理者）酒井 伊津子  
委 員 徳永 由樹 十河 淳 中田 耕治

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局長 影 本 純

教育総務課長 木 村 晋 一

教育総務課長補佐兼

指導係長 高 濱 禎 彦

教育総務課長補佐兼

学校給食センター所長 松 本 昭 児

生涯学習課長 黒 崎 享

生涯学習課長補佐兼

生涯学習係長 濱 田 潤

生涯学習課長補佐 北 野 瑞 拓

教育総務課管理係長 荒 岡 真 樹

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課管理係長 荒 岡 真 樹

提出議案 なし

協議事項 12月定例市議会教育委員会関係質問答弁について

報告事項 12月の行事報告、1月の行事予定など

【1. 開会】

松本教育長

それでは、ただいまから12月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 協議事項】

松本教育長

本日議決事項はございませんので、協議事項から始めます。協議事項につきましては、先日まで開催されていた12月定例市議会での教育関係の質問答弁の資料を事前に配布しておりますので、その中でご質問・ご意見がありましたらお願いします。

十河委員

小学校の算数については10月から、西部地区の市町村教育委員会と西部教育局が協力して作成した「単元到達評価問題」を4年生から6年生を対象に実施しているということですが、そのほかの小学校1年生から3年生や中学生の今後の動きがあれば教えていただきたいと思います。

影本事務局長

西部地区の単元到達評価問題については、小学校の算数が対象となっています。これは、鳥取県全体で算数の到達度が芳しくないということで、できることから取り組んでいこうということで、西部地区の市町村、西部教育局がタイアップしてやっている取組です。国語とか中学校の教科についても課題がないわけではないですが、一番課題がはっきりしている小学校の算数から取り組んでいくということでした。こういう具体的な取り組みについて、小学校の国語や中学校で今後取り組むというような内容は出ていませんが、来年度に向けて県の教育委員会も学力向上については、見直しをしながら取り組んでいく具体的なことがあると思います。県教委も学校訪問をして授業も見、授業改革、授業改善を指導していく体制を県、市町村と協力しながら、もう一度見直していく話が出ています。いずれにしても、学力向上の取り組みに県全体で拍車がかかってくるという雰囲気は感じています。

十河委員

ありがとうございます。

松本教育長

そのほかありませんか。

中田委員

ひきこもり・不登校についてですが、数的には小学校中学校ともに県の数値を下回っているからいいのかという判断基準なんです。不登校がどうしたら解決できるのか、学校に出たら解決なのかというようなところですが。実際、不登校ということで考えると、なかなか学校に行けない、短期間で解決するようなものではなく、時間がかかります。スクールカウンセリングがあるにしても、本当にそれが解決策になるかというところ、なかなかそうならなかった自分の経験もあります。ネットワーク的な学校以外のところで、相談できる場が表立ってあるかどうかをうかがいたい。

影本事務局長

全県的に、今年度、県としても不登校が増えてきている傾向にあるというところで、県の教育委員会も非常に課題として感じているところです。その中で、近年、境港市は、不登校の数は減少傾向にある状況です。一つのきっかけとなっているのは、各学校で月に1回、ケース会議を学校・教育委員会・子育て支援課・児童相談所の関係者が集まって、情報共有をして、支援の見立てをしていくような形がここ近年、構築されてきているところで、少しずつ、早期の対応や、具体的な支援の在り方について、学校側と専門的な関係者の見地から意見を出してもらっている効果が表れていると思います。不登校の相談は、学校を含め、教育委員会や子育て支援課にも話が行ったりすることもありますので、広く声を届けてもらえる場は増えていると思います。鳥取県のいじめ不登校対策センターも不登校の出現を抑えるために、ケース会議の手引書を作ったり、アセスメントとか支援をするにはどうすればいいかということもていねいにマニュアルを作っていて、そういうところを各学校に浸透させていく働きをしています。学校の組織的な取り組み、それに関係する機関の取り組みといったことがこれからもしっかり深まってくれば、なるべく早めに対応できたり、早めに復帰できたり、というような動きがしっかりと働いてくると思います。境港市も県の動きに対応しながら、組織をしっかり固めていくという営みを学校と連携して進めているところです。

中田委員

ありがとうございます。

松本教育長

西部地区全体でみると、親の会とか、不登校の子どもたち支

援するグループ等があります。そういったグループの活動で、常に家庭が孤立しないように、という形で支援をする動きがあります。境港市は、そのグループに積極的にかかわっているのか把握できていませんが、米子市では活動の情報提供があったり、境港市にも広がってくれば良いと思っています。

中田委員

たしかに家庭での対応が非常に大事になってくると思います。外部的な支援、学校、教育委員会の支援等がひろがってくるとしても、なかなか家庭との情報の共有とか、問題提起とかが出てきにくいと思います。保護者に対してのサポートをしていけたらいいと思います。

松本教育長

境港市は、幸いなことに、事務局長からも説明がありました。が、子育て支援課が、家庭支援という形で動いて、学校は子どもの支援という形で動ける、そういった幅の広い支援が行政としてできているというのは強みだと思います。ただ、先ほど申し上げたように、民間のグループで支援していくようなことも今後考えていかなければならないと思っています。子どもが孤立したり、閉じこもってしまうということが、これは義務教育が終わったら誰も支えなくなるということも起こってきますので、社会の中できちんと支援が続くようにしていかなければならないと思います。今回、学力問題について会派きょうどうから代表質問という形で質問をいただきました。教育長は学力向上策としていろいろなことをやっていると言っているが一向に学力は上がっていない、というそのあたりの責任、きちっとした成果を出さないといけないじゃないか、しっかりと教育委員会の中で議論をして、子どもたちに成果が見えるようにしてほしいと、やや厳しい口調で指摘をいただきました。私の考えとしては、学力の結果は一つの学年の傾向ですから、高い時もあるれば、低い時もあるって、それで一喜一憂するといのはあまりいいことではないと考えています。境港市の子どもたちはずっと長い間、学びに向かう姿勢が課題です。それは裏を返せば、メディアとの触れあう時間が非常に長いということです。ここがやはり、一つ大きな境港市としての課題と思っています。学習習慣をどう定着させていくのか、そのあたりは、学校・家庭、場合によっては地域、このあたりで、足並みをそろえながら動きをしていかなければならないと思っています。もう一つ最近

思っているのは、子どもというのは、周りの大人が教えるようには動きません。周りの大人がやっているように動く。そうすると、周りの大人が家で本を読むとか、なにかするとか学習にかかわる動きをしているのか、ここにも課題があるのではないかと思います。ですから、子どもの学力向上というのは、社会教育と一体化した対策をしていかないと、長続きしないのではないかと思っています。学校教育だけの問題ではなくて、社会教育との両面で、子どもの学ぶ姿勢を育てていかなければならないと思っています。教育委員の皆さんからもいろいろアドバイスをいただきながら、この問題に取り組んでいきたいと思っています。それと今回はLGBTに関しての質問が市長と私にありました。新しいテーマです。これまでずっとこの問題は、学校としてはそれほど力を注いできませんでした。ただ8%近い方が何らかの性的マイノリティを感じている。300人規模の学校であれば、20人を超える児童生徒が性的マイノリティを感じているということであれば放っておけない。学校の中では、例えば制服問題がありますし、トイレの問題もあります。それから学校では宿泊を伴う行事もありまして、そういったときの入浴の問題。さまざまな部分で、対応が必要になってくるんだと思います。それからカミングアウトをしている子どもはゼロなんですけど、ゼロということは対象者がいないということではなくて、まだ相談できる体制ではないというような反省もしていかなければならない。そうすると、学校での教員の指導の姿勢として、性の多様性ということをきちんと正しく子どもたちに発信できる、あるいは校内ではそれにかかわるような掲示・ポスターといったものが掲示されている、提案をいただいたのが、保健室にいけばそういった関係の本が並んでいるとか、そういった環境も非常に重要であると議員からの指摘もありまして、そういったことが今後課題かと思っています。そのほか質問・意見はありませんか。

十河委員

生徒間暴力についての質問がありましたが、生徒間暴力の定義を教えてください。友達同士でふざけあっていてけがをしても生徒間暴力になるのか、悪意のある行為でけがをしたら生徒間暴力になるのか、どういう定義でしょうか。

影本事務局長

生徒間暴力は、一つはケースバイケースの判断が必要になっ

てきます。いわゆる、事故や過失の場合は生徒間の暴力として一般的にはカウントしません。ふざけあいや、人間関係であるとか、そういうことにかかわって相手を力で傷つけるようなことになれば、それは生徒間暴力として、統計ではカウントするのが一般的です。けがしたことがすべてではなくて、背景とか状況とか、そういうものを見ながら判断しているのが、生徒指導上のとらえ方になります。

十河委員                      わかりました。

松本教育長                    よろしいでしょうか。そのほかご意見・ご質問がありませんか。

中田委員                      通学路についての質問で「こどもかけこみ110番」の家の活用を推進しているという答弁がありました。私がPTAをしていたときもかけこみ110番を活発にやっていた経緯がありますが、児童数の減少にともなって、そういった活動も薄らいできているかなということもありますし、以前から気になっていたところでは、かけこみ110番の家になっているところでも、ここはちょっとというところが以前は実際にあったりしたので、かけこみ110番の家の選択方法はどうなっていますか。

影本事務局長                「こどもかけこみ110番」については、教育委員会が直接にかかわっているわけではないで、どういった基準で決めているというのは事務局からは示せませんが、特に小学校でも低学年での学級指導の中で、安全に関しての学習で、校区にこれだけかけこみ110番の家がありますということを地図で示しながら、どうやったら自分の身を守れるかということを指導している学校もあります。低学年中学年の小学生の中には、こういうことを知っていることが非常に心強いのではないかということで、校長会でも登下校の安全については、かけこみ110番の周知や、指導をしてくださいというお願いをしているところです。かけこみ110番が取り組まれるようになってしばらくたちますので、状況をひろってみながら考えてみないといけないと思っています。

松本教育長

小学校では安全マップを作るときにかけこみ110番の位置を地図の中に落とすという学習をしてもらっています。ただ、先ほど言われたように、認定されてからすごく時間がたっていて、表示はしてあるんだけど、実は空き家になっている。該当の人が亡くなられて、だれもそういった意識を持っていないというところも結構あります。これは、見守り隊の会をしたときに、そういったご指摘をいただいています、再度、こういったところが適切かということをもう一度やらなくてはいけないと思っています。

黒崎課長

渡地区・外江地区は年に一度、かけこみ110番のチェックをして、その家が機能するかというのを検証していると思っています。それが全地区にはなっていないのではないかと思います。以前は、小さい子どもにここがかけこみ110番の家だよと教えていた時期もあったと聞いています。そうところがきちんとされればかけこみ110番が機能するのではないかと思います。

中田委員

毎年見直しがされて、なおかつ、かけこみ110番の家になっている人も再認識できることが大事だと思います。以前PTAでやっていたときは、なかなかそこまでの意志の疎通ができていなかったりとか、見直しはしていたんだけど、いろいろな話を聞く中で、この家は不適當というケースも多々あったりとかで外したりして、地図に落としていたりしていたんですけど、それ以降、そういった話はあまり聞こえてこなくて、動きも見えてこなかったの、質問いたしました。

松本教育長

子ども安全に関する見守りというのは、徐々に意識も高まってきていまして、境港市でも見守り隊が編成できるようになりました。渡地区では、健全育成の動きとして、自転車で地域の大人がパトロールしており、他の地域でも興味を持って参考にしています。中浜地区は、見守り隊が100人登録していただいて、子どもの登下校時に各所に立っていただいて、きめのこまかい見守りをしていただいています。下校時の放送も大変効果があると思います。あの放送は、決して、どこに立って見守りをしてくださいというわけではなくて、家の中からでも見守りができるような雰囲気での放送で、防犯的な要素があると感じ

ています。そのほか質問等ありませんか。（質問なし）続いて報告事項に入ります。

#### 【4・報告事項】

《教育総務課、生涯学習課、学校給食センター 行事等報告》

中田委員 図書館まつりでビブリオバトルを実施されたというところですが、どういったことをどういった方がされたのですか。

松本課長補佐 私が昨年の読書会のグループを立ち上げて、その取り組みの一環で読書まつりのイベントとしてビブリオバトルを実施させていただきました。今回は7人の発表でしたが、市内から5人市外から2人参加しました。

中田委員 それは一般の方ですか。

松本課長補佐 基本的には会のメンバーで行いました。いろいろと周知を試みましたが、なかなかマイナーなものなので申込みをいただく状況にはなりませんでした。また今後もこういった活動をしていきたいと思っています。

中田委員 バトルということは一つの本に対して議論をするのですか。

黒崎課長 各自が持参した本に関して一人が5分話をして、2分質問を受けて、その場にいたお客さんにどれが一番読みたいかを投票してもらいました。

松本教育長 ビブリオバトルは、中高生の授業としても使われています。本をしっかり読んで、読んで感じたものを自分の言葉で表現するというのが、非常に学習効果があると言われていています。結構、学校で行われています。

黒崎課長 プレゼンテーションといった、皆さんの前で説明をする能力がつくと言われていています。

中田委員 図書館のホームページなどで、生徒が本の紹介をしたら図書館に対するイメージが変わってくるのではないのでしょうか。

松本教育長

こういった読書会を市役所で立ち上げてくれたことは、境港市の前進だと感じました。これが中学、高校に広がって、来年は中学生の部や高校生の部ができればいいと思います。そのほか質問等ありませんか。（質問なし）続いて、学校給食調理等業務委託について報告をお願いします。

※資料説明（木村課長）

松本教育長

ただいまの説明でなにか質問がありますか。（質問なし）非常に技術力の高い業者ですので、アレルギーに対して、現在、市では除去する方法しかできていませんが、それに代わる食材・食品の提供がもしできれば、かなり前進すると思っています。なんでもできるというわけではないので、きちんと研究をしていただいて、実施をしていきたいと思っています。

【5. 閉会】

松本教育長

それでは議題は終了しました。本日の定例委員会は閉会といたします。ありがとうございました。